

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組 1】(A 中学校)

運動会では、学級の団結を図り、優勝することを目指して、各生徒で努力することをテーマに生徒一人一人のコメントを一覧にまとめて掲示した。

生徒はお互いの努力するところを理解し、学級一丸となって運動会に向けて学級対抗種目の練習で主体的に取り組み、達成感を得ることができた。



#### 【取組 2】(A 中学校)

運動会では学級単位のみならず、学年を超えた色別連合を作っている。第3学年を中心に意欲的に取り組む姿があった。色ごとにスローガンを生徒が考え、模造紙に、所属する色別に生徒が寄せ書きを行い、お互いの健闘を願っていた。



#### 【取組 3】(B 中学校)

巡回担当校のうち、B 中学校では各教科の目標と生徒指導の関連を意識しながら授業づくりを実施している。授業準備では、教員に生徒の情報が共有され、教員の生徒理解を促すことに役立っている。

また、共感的な人間関係を育成する観点から、多様な考えを提示して、お互いの考えの良さに気付かせる工夫や、どのような発言でも関心を示し、丁寧に聴く、一人で調べたり、考えたりする時間を十分に与える授業が行われている。

#### 【校内研修】(C 中学校)

不登校対応巡回教員が、教職員向けの通信を作成し、不登校の対応に係る基本的な事項について再度確認した。

また、未然防止のために日常に効果がある生徒への声掛けについて、具体的な事例を紹介することで、普段行われている生徒指導の見直しや改善を図った。

生徒に対するアセスメントについても日常的に関わっている学年のみの視点となりがちなことから、チーム学校として支援になるよう啓発した。

## 多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

### 支援会議（D中学校）

週1回開催している支援会議に不登校対応巡回教員が参加し、不登校の生徒の現状と支援策を確認するとともに、会議内容を全教職員へ共有し、共通理解を図っている。また、学校全体で、未然防止の取組や不登校生徒の支援について協力できる体制を整備した。

### アウトリーチによる支援（D中学校）

不登校担当の教員や養護教諭、生徒の要望で家庭訪問を実施した。実施に際しては、当該生徒と直接対話することを繰り返した。不登校生徒との登校支援を提案することで、登校につながった。保護者と共に、当該生徒の学校への意識や家での過ごし方を確認し、校内別室に通室できるようになった。

### 校内別室における支援（A中学校）

校内別室へは、教室に向かう動線とは異なる動線を設定し、安心して登校できるように工夫した。設置に関しては安心した雰囲気のある居場所になるように設置物等を工夫した。また、校内別室指導支援員が主体的にレクリエーションの時間を設けて、利用する生徒本人と相談しながら活動内容を考えている。

給食の時間には、在籍学級の生徒に校内別室まで給食を届けてもらったり、生徒本人が給食を受け取りに行ったりし、在籍学級との関わりをもつことができる工夫を行っている。



### デジタル機器を活用した支援（D中学校）

校内別室での学習支援として、一人1台端末を活用して、在籍学級と校内別室を接続し、オンライン授業の配信を行っている。在籍学級の教室でも授業に参加できるよう、校内での協力体制を図っている。また、デジタル教材による個別学習支援も行っている。

### 関係機関との連携（E中学校）

生徒の様子をより詳細に把握するために、教育支援センターやSCと定期的に情報交換をしている。また、SSWと連携することで、家庭との連携もスムーズに行っている。「どこにもつながっていない生徒」の減少に向けて、不登校生徒の実態に応じた支援を継続する。

## 成果

校内別室の運営支援を通して、担任が校内別室を訪れるようになり、生徒との関係を構築し、修学旅行に参加できるようになるなどの成果が見られた。

## 課題

生徒が登校の目標を設定できたことで、意欲的に行動できた。しかし、登校に不安が残るため、継続的に支援していくことが求められる。